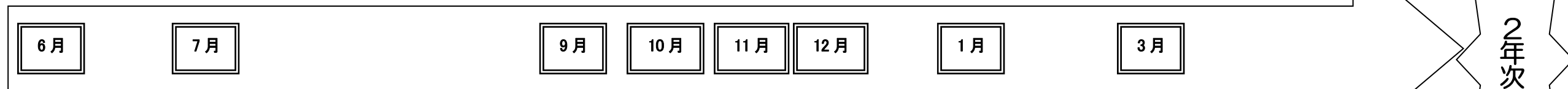


# 商学部 1年次学習ガイダンス

5月22日(火)12:20~ BIG ホール 100

その他全学年共通の行事については、インフォメーションシステムにて確認してください。

## 今後の主なスケジュール



6月29日(金)  
春学期試験時間割・参照条件等発表  
(WEB上にて)

7月12日(木)~8月22日(水)  
学外資格単位認定申請期間  
(日・祝日・一斉休業等の  
教務センター閉室日を除く)  
(春学期成績発表時認定)

12月中旬  
秋学期試験時間割・参照条件等発表  
(WEB上にて)

1月12日(土)~18日(金)  
および1月21日(月)  
→到達度の確認  
1月23日(水)~30日(水)  
→秋学期定期試験

3月中旬  
Web履修登録

9月11日(火)  
春学期 成績発表(WEB上にて)

7月17日(火)~23日(月)  
→到達度の確認  
7月24日(火)~31日(火)  
→春学期定期試験

12月20日(木)~1月30日(水)  
学外資格単位認定申請期間  
(日・祝日・一斉休業等の  
教務センター閉室日を除く)  
(秋学期成績発表時認定)

3月中旬  
秋学期 成績発表(WEB上にて)

7月27日(金)10:00~17:00  
7月28日(土)10:00~18:00  
論文(レポート)試験受付

外国語科目「単位修得パターンの変更」及び「第1・第2選択外国語の変更」の申請  
申請期間:6月1日(金)~6月11日(月)  
申請場所:教務センター  
※上記期間以降の変更は、一切出来ません。

英語Vab・VIabの履修  
(英語12単位必修の者対象)  
3年次の履修登録時に申込受付予定  
受付は、WEB上にて

ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語Ⅲab・Ⅳabの各外国語のコミュニケーションクラス受付  
秋学期(11月頃)に申込受付予定  
受付は、WEB上にて

※いずれも詳細はインフォメーションシステムにてお知らせします。

昨年度、「修得方法3」を選択して、今年嘆いているA君を紹介します。彼は昨年、中国語のIabとIIabが「不合格」だったため、今年度再履修することになりました。今年は第3選択外国語も履修するため、英語と併せると、外国語科目だけで、3カ国語12科目となってしまいました。A君のようなケース以外(「修得方法1」や「修得方法2」)でも科目数が増えることはあり得ます。つまり、どの修得方法でも今履修している外国語科目が「不合格」となれば、次年度は、それだけ余分な負担が増えるということになります。皆さんは、このようなことにならないよう、今履修している外国語は、必ず修得してください。

### A君(修得方法「3」[8・4・4パターン]を選択)のケース

#### 1年次のとき

英語Iab(合格)  
英語IIab(合格)  
中国語Iab(不合格)  
中国語IIab(不合格)



#### 2年次のとき

英語Ⅲab  
英語Ⅳab  
中国語Iab(再履修)  
中国語IIab(再履修)  
朝鮮語Iab  
朝鮮語IIab

### 成績優秀者表彰制度 資格取得者公表・表彰制度 学外資格単位認定制度

#### 成績優秀者表彰制度

各学年上位20名を表彰します。  
成績発表時に氏名を公表し、表彰状を授与します。

#### 資格取得者表彰・公表制度

4月・7月・12月に公表・表彰します。資格を取得した人は申し出てください。どちらも履歴書に記載できます！  
がんばってチャレンジしましょう！

#### 学外資格単位認定制度

商学部が定める検定試験や資格を取得した場合は、専門科目の単位として認定することができます(20単位以内)。  
入学後に取得した資格については、合格した学期または次学期のみ受付します。資格を取得した人は、『合格証書』の写しを添付し、受付期間に申請手続きをしてください。

### 成績不良者指導

- ・ 修得単位が少ない
- ・ 基礎演習等の必修科目を修得していない
- ・ 外国語科目が半分以上修得できていないなどの場合は、後日呼び出しのうえ、指導を行います。また、保証人に対してもその旨の通知をします。  
このような指導を受けることのないよう、しっかり学習しましょう！

## 試験について

### 試験を受けるときは

- ・ 学生証を必ず携帯してください
- ・ 学籍番号・氏名を忘れずに！(例: 商18-0999 関大 太郎)
- ・ 携帯電話・スマートフォン等は電源を切ってかばんの中へ！時計としても使用不可
- ・ 電子辞書は使用できません
- ・ 試験の曜日・時限・教室を間違えずに受験すること(通常の授業時から変更されることがあります！)

**不正行為は厳しく罰せられます。(4年間での卒業はかなり厳しい)**

### 参照・使用条件

参照条件の中に「自筆ノート」とある場合は、「コピーノート」の持込はできません。単に「ノート」と勘違いして持ち込んでいると、不正行為になってしまいます。参照条件は、その内容をよく確認して試験に臨んでください。

### 平常試験、論文(レポート)試験

科目の中には、「平常試験」や「レポート試験」をもって学期末試験に代えることがあります。詳細は、「試験時間割表」(WEB)で確認してください。また、レポートについては、提出期日などの約束事があります。所定の日時に提出しなかったり、担任者に直接渡したりすると無効になります。また、指示された書式や枚数でなければ、教務センターでは受け付けません。用紙サイズ違いで受付けてもらえず、書き直している間に提出時間が過ぎてしまうということがないように気をつけてください。

### 到達度の確認・筆記試験

大学での試験は、その多くが「論述式」の試験です。この場合、たとえば、「〇〇について述べよ」などのケースがあります。大切なことは、求められている解答に対し、限られたスペースで、自分が理解していることを、いかに要領よく記述することができるかです。また、科目担任者が、それを読むわけですから、丁寧な字で書くようにしてください。

## GPA 制度について

授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的に、GPA (Grade Point Average) 制度を採用しています。この制度では、各評価 (秀・優・良・可) に対しGP (Grade Point : 4・3・2・1) を付与し、次のとおり平均点 (GPA) を算出します。履修届、成績証明書等にGPAを記載します。

$$\frac{[\text{秀S}] \text{ 修得単位数} \times 4 + [\text{優A}] \text{ 修得単位数} \times 3 + [\text{良B}] \text{ 修得単位数} \times 2 + [\text{可C}] \text{ 修得単位数} \times 1}{\text{総履修単位数 (S+A+B+C+不可F+不受験I)}}$$

春、秋各学期の授業開始約1か月後に、履修辞退期間を設けています(追加は不可)。履修登録後、授業・試験を受ける意思がない場合には、指定の期間中に履修辞退の手続を行えば、GPA算出の対象になりません。

## ◆ 2年次からの「演習」「ワークショップI」(ALSP)を履修するために

「演習」「ワークショップI」(ALSP)を履修するための先修条件は特にありません。履修申込にて希望する担任者を届け出て、受講を許可されたものに限り履修することができます。履修申込受付は、2年次の春学期に履修説明会を開催のうえ行います。詳細は別途インフォメーションシステムでお知らせします。

## ◆ 3年次からの「専門演習」「プロジェクト研究1・2」(BLSP)「ワークショップII・III」

### (ALSP)を履修するために ~3年次の履修登録をする前に~

「専門演習」「プロジェクト研究1・2」(BLSP)「ワークショップII・III」(ALSP)は、2年次終了時点で第1類入門科目(必修科目)12単位を含めて、卒業所要単位のうち合計60単位を修得したうえで、履修申込にて希望する担任者を届け出て、受講を許可されたものに限り履修することができます。履修申込受付は、2年次秋学期の11月頃に行います。詳細は別途インフォメーションシステムでお知らせします。

## ◆ 必修科目の同一年度内再履修について

春学期開講の必修科目を修得できなかった場合、履修制限単位の範囲内で同一年度の秋学期に開講する再履修クラスを受講することができます(基礎演習のみ翌年の春学期)。また、秋学期開講の必修科目は、翌春学期に再履修クラスを開講します。履修方法等の詳細は別途インフォメーションシステムでお知らせします。

## ◆ ビジネスリーダー特別プログラム(BLSP)

商学部の教育理念である「品格ある柔軟なビジネスリーダーの育成」を目指し、「グローバルに活躍するプロアクティブ・リーダーの育成」をそのコンセプトとして、少人数クラスによるビジネス英語教育と産学連携によるプロジェクト型の実践学習を軸に、国際的に活躍できるビジネスリーダーを育成することを目的として設置しています。

## ◆ 会計連携特別プログラム(ALSP)

日商簿記1級、公認会計士といった会計プロフェッションをより効果的に輩出することを目的として設置しています。各科目は、会計専門職大学院と連携して行われます。また、本学会計専門職大学院への進学を目指す、きわめて優秀な学生を対象に早期卒業制度を設けています。

## ◆ サービス・イノベーション特別プログラム(DSI)

膨大なデータからビジネスのダイナミクスを科学的に理解し、新しい知見を基礎に新しい社会的価値、ビジネスを創造しうる人材を育成することを目的としています。複雑な事象を科学的に捉える分析力、新しい知見を駆使した企画力、実践力を養います。産学連携プロジェクトの中で実践を伴った企画開発・立案の教育を行います。

もう一度、『HAND BOOK』をよく読んで、理解を深めましょう！